

	<h1>号外</h1>	定価 1部2円 発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合	No.号外7 2021年 12月23日	研究部門の体制拡 充の改善姿勢を示 すも、具体策は継 続課題。あるべき 組織体制に向けて 要求し続けよう。
	昭和34年4月1日 第3種郵便物認可			

2021評協議会交渉⑦ 12.22農林水各試験研究機関/農林水産企画室長交渉

研究部門 人員予算は確保に工夫重ねる

農林水産企画室長 研究に必要な体制は確保していきたい

県職労では、農業（農研・畜研他）、林業（林技）、水産（水技・内水面）の各試験研究機関に係る職場実態討論を経て、来年度の組織・定数要求や職場環境改善を柱とする、農林水産部長あて要請書を作成。12月22日大畑農林水産企画室長に手交のうえ、交渉を行った。

【交渉結果】

①農業研究は「生産者のニーズを踏まえた研究には県単研究費の確保は必要。センター意見を踏まえ予算取りに努力」「定数増は難しいが、研究体制の確保を適切に行う必要がある」とした。交渉団から研究員の人事配置の在り方、県単研究費の拡充、施設設備の改修を求めた。

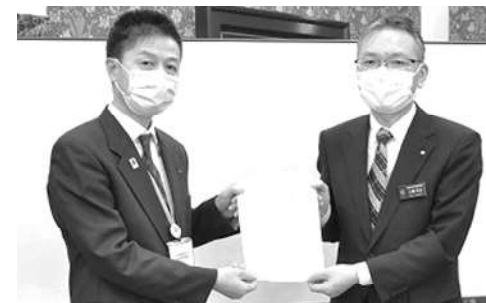
②林業研究は「研究部門は、研究課題の業務量を踏まえて調整を検討。林業アカデミーは森林環境譲与税を活用し、一部研修を委託化し、職員配置を進めてきた」とした。交渉団から、職員が高齢化している実態に触れ、職員の年齢構成を踏まえた若手・中堅職員の配置、林業アカデミーの職員体制の一層の改善、施設設備の改修を求めた。

③水産研究は「主要魚種の不漁の中、研究・普及に努力。必要な体制確保に努める」、「業務で必要な資格取得等の経費支援は必要なものは予算化を進めていく」、「施設整備は優先順位を付して計画的な整備に努める。内水面の庁舎の在り方は予算確保を含めどうやっていくか検討を進めていく」とした。交渉団から、研究部門の職員体制維持、調査船の補修等や交換部品のない機器類の更新に係る予算確保、内水面庁舎のリモート環境整備などを求めた。

大畑室長から「研究部門に必要な人員・予算の確保に向けて努める」姿勢を引き出すも、要求している研究部門の体制強化に向けた具体的な改善策は十分でなく、継続課題となった。引き続き、課題を集約し、改善を求めていく（主な交渉結果は裏面）。



農業部門要請書を手交（農研・山口分会長）



林技要請書を手交（林技・高橋分会長）



水技要請書を手交（水技・宮田分会長、内水面・川島分会長）

1 農業研究部門の体制強化（人員・県単研究費拡充ほか）

（農水室長）①研究体制の拡充（病虫害防除含む）は、現状では職員定数の増は難しい。しかし、研究の必要性に応じた体制は適切に確保する必要がある。所長等の意見を踏まえて体制確保に努める。

②予算措置は、県単研究費の確保は必要。もともと、研究の重要性、農業振興・発展のための位置づけを財政サイドに理解いただく必要。部としても今年度はサマーレビューを通して研究課題を共有する機会を設けた。財政課に



回答する大畑室長



実態訴える・農研山口分会長

理解いただき、予算取りに努力する。

（県 職 労）①職員育成に関し、人材育成と研究の継続性を踏まえた体制確保を。若手の横のつながりも重要であり、若手研究員への一層の対応を。

②県単研究費の件だが、外部競争資金を獲得するため、その下地の研究が必要であり、そのために県単研究費の確保が必要。また、農業研究センターは築20年以上、設備の更新や修繕が必要。確保に尽力を。

（農水室長）人材育成はジョブローテーションを考慮し、組織として配置や人事異動は考える。予算確保に関し、緊急度・優先度を考慮して確保に努める。

2 林業研究・研修部門の体制強化（林技）

（農水室長）研究部門は、研究課題を踏まえた林業技術センターの業務量を踏まえ、関係課と調整を検討する。林業アカデミーは定員を超えるニーズがあり、育成を続けてきた。森林環境譲与税を活用し、一部の専門研修は外部委託して2人が常駐している。人員体制確保に向け委託を含めて対応を検討。

建物の修繕は林業技術センターと連携し、必要な予算確保に努める。

体制強化を・林技高橋分会長

（県 職 労）研究部門は部長を含め8人体制で何とか維持。さらに職員の半数は50歳以上、年齢構成の若返りが必要。林業アカデミーは外部委託2人確保も、ぎりぎりの体制。増員をしていただきたい。施設は屋根の雨漏りが発生しており、計画的な改修の予算措置を求める。

（農水室長）施設予算は長寿命化の観点から確保に努める。職員体制に関し、どういう形でのジョブローテーションの在り方がよいか林務担当技監とも考えていく。



3 水産研究部門の体制強化（水技・内水面）

（農水室長）①体制強化は、主要魚種の不漁の中で、研究・普及に努力いただいている。必要な人員体制の確保に努める。

②必要な各種資格等の経費は、必要予算が確保できるようにする。

③老朽化対策は優先順位を付して計画的な整備に努める。内水面

は庁舎改修が課題。施設改修を進めているが、予算確保を含めどうやったらよいか調整していく。



改善求める水技・宮田分会長（左）/内水面・川島分会長（右）



見解示す大畑室長（左）

（県 職 労）会計年度任用職員が減の方向、研究員の体制維持と定数確保を。取水設備の修繕は不可欠であるし、調査船の修繕経費や交換部品のない機器類更新の予算措置を。内水面ではリモート環境がなく打ち合わせ・研修で不便も。環境改善を。

（農水室長）正規の研究員確保に努める。調査船等の修繕は乗組員の安全もあり不可欠。関係設備の修繕も重要であり、予算確保に努める。内水面のリモート環境の課題に関しては、関係課と相談させていただきたい。